

学校教育課だより

# かけはし



学校教育課だより  
「かけはし」  
【第6号】  
令和元年  
10月21日発行  
御殿場市教育委員会  
学校教育課

## 生涯学習と祭り

### 社会教育課長兼青少年センター所長

山崎 和夫



令和の時代になって半年が過ぎようとしています。年が変わると今年こそは新しいことをやろうと思う人が多いと思います。現在の平均寿命は、九十歳近くになっていますので何を始めるのにも遅すぎるといえることはありません。是非いろいろなことに挑戦していただきたいと思っています。「学習」というと一般的には保育園、幼稚園から大学までのことのように受け取られがちですが、実際には学校を卒

業した後も学習を続けなければ充実した人生を送ることはできません。現在はスマホやパソコンが多くの家庭に普及し、「いつでも」、「どこでも」、「なんでも」、「楽しく」学ぶことができます。大事なものは、本人のやる気です。社会教育課では、主に学校教育以外の教育を受け持っています。学校教育と併せて、「生涯学習」とも言われています。具体的には、地域活動、スポ

ーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動など私たちの生活の中で行われていることです。さて、市内では、十月になると各地で秋祭りが始まります。誰もが祭りや聞くとかわくわくすると思います。祭りは見るのも楽しいのですが、自分で太鼓を叩いたり、笛を吹いたり、神輿を担いだりするのも楽しいものです。しかし、地域のお祭りが存続の危機に立たされています。高齢化や人口の減少、考え方の多様化などの理由で参加者が減少し、お祭りが成り立たなくなっているのです。今、多くの地域が、こうした悩みを抱えているといえます。人知れず消えていく祭りが、加速度的に増えているといわれています。全国ではおよそ二十万の祭りがあると推計されて

いますが、消滅したり、存続が危ぶまれたりしている祭りが少なくないのです。私の家の近くの浅間神社でも祭りを実施していますが、祭りに関する区民の認識は変わりつつあり、山車の引き廻しや神輿渡御への参加者が減少傾向にあります。私が所属している浅間神社の祭祀保存会では、伝統を継承し、未来を担う人材を育てるために、小学生などを対象に太鼓教室を十年前から実施しています。太鼓を叩くことは子供であれ、大人であれ、楽しく、ストレス解消にもなります。しかし、覚えて仲間と合わせて叩けるようになるには時間がかかります。教室では、大人の指導者と子供たちが積極的に参加し、一生懸命練習をしており、地域のコミュニケーションの活性化に一役買っています。繰り返しになりますが、生涯学習は「やろう」と思った時が始める時期です。皆さんもやりたいことを見つけ、是非、挑戦してみませんか。



全国学力学習状況調査の結果から  
学校教育課 丹澤 謙志

本年度の全国学力・学習状況調査は、各教科ともA問題、B問題のくりがなくなり、総合型の問題として出題されました。また、中学校英語調査が初めて実施され、「話すこと調査」では、生徒が回答した音声データを回収し、採点する方式で実施されました。以下は、御殿場市の概要です。

【小学校国語】  
全体としては全国平均を下回る結果となりました。「話すこと聞くこと」のみ、全国平均を上回りました。

【小学校算数】  
「図形」は全国平均と同等でしたが、他の三観点は全国平均大きく下回る結果となりました。

【中学校国語】  
概ね全国平均と同等の結果でしたが、「読むこと」に課題が見られました。

【中学校数学】  
四観点中三観点で全国平均を上回りましたが、「関数」に課題が見られました。

【中学校英語】

「話すこと」集計の対象外です。他の観点はすべて全国平均を上回っており、好成績でした。一方、生活状況調査からは、次のような姿が見られました。

- ・規範意識が高く真面目に学校生活を送っている。
- ・自己肯定感を抱いている子供の割合が高い。
- ・学校に行くのは楽しい、先生はあなたのよさを認めてくれる」と回答する割合が高い。
- ・「計画的な学習」や「平日の勉強時間」等について課題が見られる。

御殿場市の子供たちは、安全・安心のもとに、健全な学校生活を送っています。

さて、今回の調査結果から見えた課題は、「学力の定着」につきます。市学力向上委員会では、多方面から結果を分析し、今後、研修主任者において公表する予定ですが、各校においては、それを待たずに、具体的な授業改善を早急に進めてほしいと考えています。御殿場市の子供たちが、乗り遅れることなく、今後求められていく力を身に付けられるよう、御協力をお願いします。

教育センターだより

風薫る

学びをつなぐ

算数・数学

指導員 岩田 京子



算数・数学は系統性が高く、積み上げの教科といわれます。各学年の学習内容の一つ一つが順に積み重ねられていくことにより、算数から数学、さらに高度な学問へとつながっていきます。算数・数学では新しい学習に出会う時、その内容は過去の学習内容とつながりがあり、過去の学習内容を生かすものになっている訳です。当然、既習事項の定着が重要です。しかしながら、実際には百パーセントの定着が図れないことも事実です。そこで、指導の中で振り返りや学び直しを行って『学びをつなぐ』ことがとても大切になります。

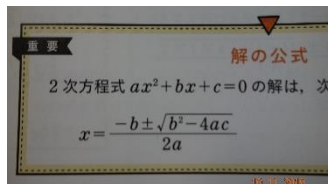
また、確かな理解に至る頑丈な土台を作るには、どの場所にもどの内容を積み上げることも重要になります。つまり、教材の系統性です。教師は「新しい学習にはどのような既習事項が必要か」「現在の学習内容は次の学年のどの学習にどのようにつながるか」と、教材の系統性を理解して『学びをつなぐ』指導をすることが大切です。

◇解の公式と分数の通分

「解の公式」と聞くと、中学生時代にすっかり暗記した記憶がよみがえる人が多いのではないのでしょうか。

御殿場中学校の渡邊裕太先生は深化教材として、「もっと深めちゃうよ」のタイトルで2次方程式の解の公式を導く授業を行いました。具体的な数式を用いて解を導いた後に文字式での解に挑戦します。導入で生徒が解いた具体的な数式の計算過程には、渡邊先生が色チョークで「全てに×1-3」「平方根」等々と、解

を導く際のヒントをさりげなく書き加えました。既習事項を本時の学習内容につなぐ支援です。生徒たちは、今度は文字式で2次方程式の解を導いていきます。机間指導での見届けを通して、渡邊先生は通分でつまづく生徒が複数いることに気付きました。同時期、小学校5年生は「分数のたし算とひき算」を学習しています。まさに異分母の分数を通分して計算することを学んでいるのです。小5と中3、学びのつながりを実感しました。



◇系統性のある図形学習

高根小学校の池田廉先生は6年生「立体の体積」の授業を行いました。2年生で箱の形から入る立体図形の学習は、球や直方体・立方体、展開図や見取り図を経て、5年生でその求積と角柱・円柱を扱い、6年生で柱体の求積を学習します。その最終となる複合図形の体積を求める授業です。池田先生は導入で既習事項の振り返りと学びの手がかりの設

定をしました。前時で用いた求積公式の立体的揭示、複合図形を柱体として捉えるヒントに「底面積×高さ」の公式の再確認、さらに、複合図形の学習経験を想起して欲しいと考へ4年生の面積学習で扱う平面図形を黒板に貼りました。学びをつなぐアイテムを手に入れた子どもたちは生き生きと学習に取り組みます。準備した立体模型も功を奏し、日頃自力解決が難しい児童も複数の考えの考へを導くことができました。



◇学びをつなぐ…例えば

- ①小中学校がお互いの内容を知らることが大切です。職員室にそれぞれの教科書が揃っていると良いと考えます。
- ②学習指導要領解説には「内容の構成」が小中9年間の表で示されています。
- ③教科書の各単元始めの準備ページでは、既習事項を簡潔に振り返ることができます。